シュリー・ハヌマーン、偉大なる戦士、熱烈なる信奉者

モーガン・フーパーによる紹介

グルデーヴ・シッダ・ピートゥとシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムの神聖な敷地とテンプルを美しく飾っているのは、ラーマ神の気高い弟子であるハヌマーンの像です。ハヌマーンの強大な姿を捉えて彫刻されたこれらの像は、彼をターダーサナ、山のポーズで表現しています。その大きな筋肉質の体格はリラックスしていて軽やかです。長い尾は生き生きとして、ほとんど遊んでいるようです。右肩に軽々と乗せているのはガダー、戦いのためのつち矛です。彼の温かく慈悲深いまなざしは、地平線に目を向けていながらも、同時に彼を驚嘆して見ている探究者たちも受け入れているように見えます。シュリー・ハヌマーンに会うことは、最も偉大なるバクタ、最も勇敢なる戦士、そして神の最も謙虚な召使いとのダルシャンを持つことです。

シッダ・ヨーガの道では、シュリー・ハヌマーンは、保護、勇気、そして祝福のために呼び起こされます。シュリー・ハヌマーンはまた、その模範的な美徳で尊敬されています。勇敢さ、奉仕、度量の大きさ、身を委ねること、陽気さ、古代の教典の知識、そして揺るぎない英知――これらは見習うに値する彼の輝かしい資質の一部です。何よりも、ハヌマーンはグルへの献身と忠誠の権化と見なされています。

風の神、ヴァーユの息子であるシュリー・ハヌマーンは、『ラーマーヤナ』で中心的な役割を果たしています。『ラーマーヤナ』は古代インドの叙事詩であり、ラーマ神の生涯と、ダルマを地上に復活させる使命を描いています。この物語では、ラーマは悪魔ラーヴァナの手中から、妻シーターを救出しなければなりません。そして彼はこの旅の途中で、ヴァーナラ、す

なわちサルの一族の、シュリー・ハヌマーンに出会います。この強大なサルには、時として神にさえも畏敬の念を抱かせるほどの、計り知れない偉業を成し遂げる能力があります。ハヌマーンは強くて素早く、どんな距離でも跳び越え、望むどんな形にも変身することができます。

ラーマに会うと、ハヌマーンは即座に彼を慈悲深い神だと認め、シーターが誘拐されたことを知ると、彼のために彼女を見つけ出すと誓います。ハヌマーンの献身を喜んだラーマ神はそれを受けて、探索の任務に彼を送り出します。ハヌマーンはついに、ランカー島のラーヴァナの要塞（ようさい）でシーターを発見します。ハヌマーンは、取り巻く無数の悪魔にひるむことなく、あらゆる危険を撃退し、シーターを背負って安全な所に運ぶと申し出ます。シーターは自らが危険にさらされていながら、もっと大きなこと――すべての人類の調和の回復――が危機に陥っていることを知っていて、申し出を丁重に断ります。これを成し遂げる唯一の方法は、ラーマ神がラーヴァナと対決し、打ち負かすことなのです。

シュリー・ハヌマーンは、彼のラーマ神と、彼が恭しく女神をそう呼ぶ母なるシーターの望みに従い、そうすることで、彼は力だけではなく、謙虚さと神の命令に対する従順さをも示します。ヴァーナラ・セーナー、すなわち猿の軍隊の大将として仕えるハヌマーンは、悪魔の大群に勝ち、一方、ラーマと弟のラクシュマンはラーヴァナを倒し、シーターを取り返し、平和を取り戻します。

ハヌマーンの誕生を祝うハヌマーン・ジャヤンティは、毎年、ヒンズー暦の最初の月であるチャイトラの満月の日に祝われます。西暦では、この祝日は4月によく行われます。ハヌマーン・ジャヤンティには、伝統的に、シュリー・ハヌマーンと彼の勝利にささげられた『ラーマーヤナ』の中の章である「シュリー・ハヌマーン・チャーリーサー」と「スンダル・カーンダ」が朗唱されます。また、彼の勇敢さの献身的な賛歌が歌われ、アーラティーや他のさまざまなプージャーが行われます。信奉者たちは彼の冒険の物語を語り、子どもたちは偉大な戦士の

ふりをしてお面を着けます。このお祝いの期間中は断食が行われ、その後おいしいごちそうを食べ、そして寺院ではボーンディ・ラドゥーのプラサードが配られます。

© 2022 SYDA Foundation®. 著作権所有。